

「行政視察報告書」(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成29/6/5(月)～6(火)

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 愛知県尾張旭市 6/5(月) 14:30～16:00

「元気まる測定・あたまの元気まる」について

JR倉吉駅を午前8時12分出発、JR新幹線、JR中央本線、名鉄瀬戸線を乗り継いで尾張旭駅に午後1時頃到着。昼食をとった後、旭尾張保健福祉センターに到着。

尾張旭市議会 片淵卓三議長、尾張旭市健康福祉部健康課 臼井武男課長 などの出迎えを受ける。あいさつの後、片淵卓三議長より尾張旭市の概要について説明を受ける。

尾張旭市は、濃尾平野の東部に位置し、東に瀬戸市、北と西は名古屋市に接している。面積21平方kmと狭く、名古屋市の中心部から約15kmと通勤・通学などに恵まれた立地にある。

次に、片淵卓三議長より視察の目的に関連した説明を聞く。尾張旭市は平成16年に「健康都市宣言」を行い、尾張旭市健康都市プログラムの3つの施策の方針「寝たきりにさせないまちづくり」「外に出かけたくなるまちづくり」「住み続けたいくなるまちづくり」に基づく事業で、町全体で健康づくりを進めることによって「健康都市 尾張旭市」をめざしている。



健康課職員より「あたまの元気まる(軽度認知障がいチェックテスト)について説明を受け、実際に視察者の1名がチェックテストを受けてみた。

「あたまの元気まる」は、認知症の予防を図るとともに、認知症予防の必要性への気づきや意識高揚を図ることを目的として平成25年から開始した。インターネット接続環境にあるパソコンを使用し、オペレーターと受験者が1対1となり、約15分の質問に答える。対象は40才以上の要介護・要介護認定を受けていない市民である。実際に視察者の1名が受検したが、普段は個別スペースの中で環境

設定も出来ている中での実施であるが、視察会場を使つての受検でありかなりの緊張状況であったと考えられる。認知症の判定というよりは軽度認知障がいの予防及び早期発見・早期対処を目的としている。1回の検査だけでなく、複数回の検査を通じて所期の目的に達することが大切である。検査機器の導入や検査の進め方なども関係して大勢で実施ということは難しいが、今後の認知症予防という視点で考えると参考になる取組である。

「あたまの元気まる」に関しての質疑後、「元気まる測定」についての説明・質疑を行った。「元気まる測定」は、平成13年にオープンした保健福祉センターを市民の生活主幹病の一次予防及び健康増進を目的とした中核フロアとして、健康度評価事業「元気まる測定」の設備を元気測定室に整備したものである。日頃の健康状態と生活習慣チェック→当日の健康状態チェック→体力測定実施→結果説明及び保健指導という流れとなる。

質疑の後、元気測定室や検査設備などを見学した。



(2) 愛知県豊橋市 6/6(火) 10:00~11:30

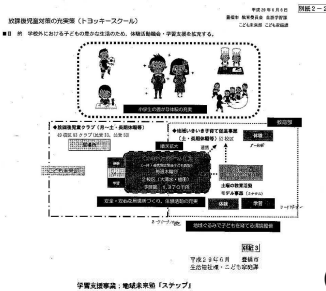
「トヨッキースクール・地域未来塾ステップ」について

視察に要する距離が長い前日のうちに名鉄瀬戸線、JR中央本線、名鉄名古屋本線を乗り継いで豊橋市に移動。豊橋駅から豊橋鉄道(路面電車)で市役所駅前に到着。多少時間があつたので隣接する豊橋公園を散歩。徒歩で豊橋市役所へ。

市役所には約束の時間より早く着いたが、議会事務局職員の出迎えを受ける。6月議会前ということもあり、豊橋市でも諸会議が行われていたようであった。無理をお願いしての視察であり、感謝して視察会場に向かう。会場ですばらく待機した後、豊橋市議会議長 坂柳泰光氏、豊橋市教育委員会生涯学習課長 村田直広氏、豊橋市子ども未来部子ども家庭課・子ども若者総合相談支援センター 課長・センター長 種井直樹氏らがお見えになる。



あいさつの後、坂柳議長より豊橋市の概要について説明を受ける。豊橋市は人口約38万人で東三河の人口の過半数を占める中核市である。平成28年には市制施行110周年を迎え、記念式典や海フェスタ東三河、110件の市民提案イベントなど多彩な記念事業を行い、111年目となる平成29年度は110周年記念事業を通じて生まれた「人と人とのつながり」や「新たに生み出された豊橋の魅力」を継承・発展させ、いきいきと輝くまちづくりを進めている。三河港の自動車輸入金額・台数は全国1位、同輸金額は全国第2位、輸出台数は全国第3位である。



1. 視察の経路

2. 視察の場

項目	内容	所要時間	備考
到着	豊橋市役所	10:00	
会議室	豊橋市役所	10:30	
出発	豊橋市役所	11:30	

3. 視察の場

項目	内容	所要時間	備考
説明	豊橋市役所	10:30	
説明	豊橋市役所	11:00	

村田直広氏、種井直樹氏らからトヨッキースクール(放課後児童対策の充実策、地域未来塾ステップ(学習支援事業)について説明を受ける。トヨッキースクールは、学校外における子どもの豊かな生活のため、体験活動機会・学習支援を拡充するもので、教育委員会生涯学習課と子ども未来部子ども家庭課が共同で実施する。放課後児童クラブ(月~土・長期休暇等:子ども未来部)と地域いきいき子育て促進事業(土・長期休暇等:教育部)の事業を一体・連携させ、放課後子ども教室として毎週木曜日実施予定の新規事業である。安全で安心な居場所づくり、体験活動の充実をめざしている。

地域未来塾「ステップ」について。生活困窮世帯及びひとり親家庭の中高校生を対象に、気軽に相談することの出来る大学性のボランティアによる学習教室を開催し、安心できる居場所の提供や学習意欲の喚起・教科指導等を行うものである。これまで、生活福祉課が生活保護受給世帯や生活困窮世帯の中学生対象の学習教室を実施、子ども家庭課がひとり親家庭を対象に学習教室を実施していた。対象者を統一し、生活福祉課と子ども家庭課が共同で地域未来塾「ステップ」として3会場の運営を開始することとなった。説明を聞いた後、両事業についての質疑を行い、積極的な発言が続いた。



2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。6月議会前という多忙な時期にもかかわらず、われわれの視察に対し時間を割き対応していただいた尾張旭市、豊橋市の関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いたことに感謝いたします。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。